

## 5. 転出者女性の転出理由等に関するアンケート調査及びヒアリング調査

### 5.1. 実施概要

#### 5.1.1. 目的

三重県は「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」の経済分野において低位に位置している。このことをふまえて、アンケート調査及びヒアリング調査を通じて転出理由の背景にあるジェンダーギャップの存在や、三重県と転出先との多様な価値観への寛容性の違いを把握し、若年女性特有の転出理由の傾向を明らかにし、効果的な人口減少対策の施策を検討することを目的にアンケート調査を実施した。

#### 5.1.2. 実施内容

三重県から転出した人の属性や転出理由、U ターン意向の傾向を定量的に把握するため、web アンケート調査を実施した。また、効果的な施策の検討に向けて、転出理由の背景や U ターン意向に影響を及ぼす要素を明らかにするために、アンケート調査の回答結果をふまえ、ヒアリング調査を実施した。

#### (1) アンケート調査

##### 1) 調査目的

三重県から転出した人の転出理由や三重県への U ターン意向、三重県と転出先との地域性の違いを定量的に明らかにすることを目的に実施した。

##### 2) 調査方法

web モニターの登録者に対して、調査対象条件に該当することを確認するため、事前にアンケート調査を実施し、調査対象者を抽出した上で、本調査を実施した。

なお、事前アンケート調査によって抽出した本調査の対象者の抽出条件は以下のとおり。

図表 5-1 本調査の対象者の抽出条件

抽出条件	
①	三重県からの転出者の多い三大都市圏（東京圏・中京圏・関西圏）の在住者であり、かつ、三重県に居住経験のある男女各 300 名（計 600 名）
②	三大都市圏（東京圏・中京圏・関西圏）のいずれかへの転出経験があり、かつ、現在三重県に居住する男女各 100 名（計 200 人）

図表 5-2 都市圏の定義

圏域名	都府県名
東京圏	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
中京圏	愛知県、岐阜県、静岡県
関西圏	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県

### 3) 調査対象者

事前アンケート調査の結果から、下表のとおり、回収数を割り付けて本アンケート調査を実施した。

本調査の実施にあたり、転出先の都市圏ごとの転出理由の傾向の違いやUターンの理由についても把握するため、現在の居住地をもとに均等に回収数の割付を行った。また、転出時の年代ごとの傾向の違いを把握するため、転出した際の年代を18～20代、30代、40代に区切り、均等に回収数を割り付けた。

図表 5-3 本調査の回収数の割り付け

属性		転出時の年代		
現居住地	性別	18歳～20代	30代	40代
東京圏	男性	33人	33人	34人
	女性	33人	33人	34人
中京圏	男性	33人	33人	34人
	女性	33人	33人	34人
関西圏	男性	33人	33人	34人
	女性	33人	33人	34人
三重県	男性	33人	33人	34人
	女性	33人	33人	34人

### 4) 調査期間

令和6年9月25日から令和6年10月3日まで調査を実施した。

### 5) アンケート項目

事前アンケート調査及び本調査の項目は以下のとおり。

図表 5-4 スクリーニング用アンケート項目

アンケート項目の設定意図	アンケート項目
本調査対象者の抽出	現在住んでいる都道府県
	過去に住んだことのある都道府県
	三重県に住んだ経験の有無
割り付け条件の確認	三重県から転出した際の年代
	回答者の性別
	現在の年代
基礎情報の取得	回答者の職業
三重県への移住意向	今後の三重県への居住意向

図表 5-5 本アンケート項目

論点	アンケート項目
基礎情報の取得	働き先の会社・団体の業種
	現在居住している自治体
	転出時の同伴者
転出のきっかけ	転出のきっかけとなったライフイベント
	就職先/転職先を選ぶ際に重視したこと
三重県／転出先における 家族観	家族内における女性の役割に対する価値観
	子どもをもつことに対する価値観
	周囲からの目線に対する価値観
	家庭と仕事のバランスに対する価値観
三重県／転出先における 仕事観	性別による仕事内容の違い
	女性の出世や昇進に対する意欲
	働き方に対する周囲の目線
	新しい取組に挑戦する際の周囲の態度
三重県／転出先における 人間関係・コミュニティ の特徴	頼れる知人・友人がいるかどうか
	家族や教師からの干渉
	新たな人やコミュニティとの出会いの有無
	新しい考えや地域外の人に対する受容性
三重県／転出先における 生活環境の特徴	世間の流行に触れられる施設や環境へのアクセスのしやすさ
	遊び場や暇をつぶす場所の有無
	通学先や通勤先へのアクセスのしやすさ
	日常的な買い物や飲食、病院へのアクセスのしやすさ
三重県への移住・関係意 向	居住先に求める条件
	今後の三重県への移住意向
	三重県に移住したいと考える理由
	三重県に移住したくないと考える理由
	三重県との現状の関わり方
	三重県と関わる頻度
	今後望む三重県との関わり方
	今後望む三重県と関わる頻度

## (2) ヒアリング調査

### 1) 調査目的

若年女性の三重県からの転出理由や三重県への U ターン意向の背景を詳細に把握するとともに、三重県の地域性が転出や U ターンの意向に対して与える影響を明らかにすることを目的にヒアリング調査を実施した。

### 2) 調査対象者

アンケート調査の回答者及び「みえフェス」<sup>8</sup>の参加者からヒアリング対象者を募集し、三重県から転出した際の年代及び転出のきっかけとなったライフイベントをもとに、合計 34 人の対象者を選定した。なお、ヒアリング対象者の選定にあたり、本調査が若年女性の転出理由を明らかにすることを目的としていることから、18 歳～20 代の割合が高い。

ヒアリング対象者の転出した年代及び転出のきっかけとなったライフイベントについては以下のとおり。

図表 5-6 ヒアリング対象者の選定結果

		転出した年代		
		18 歳～20 代	30 代	40 代
転出のきっかけとなったライフイベント	進学	14 人	—	—
	就職	3 人	—	—
	転勤	1 人	4 人	1 人
	転職	—	4 人	1 人
	結婚	3 人	3 人	—

### 3) 調査形式

オンラインもしくは対面形式で 1～3 人ずつのグループでヒアリングを実施した。

### 4) 調査期間

令和 6 年 10 月 16 日から令和 6 年 12 月 5 日まで実施した。

<sup>8</sup> 三重にゆかりのある首都圏在住の若者のコミュニティ

## 5) 調査項目

ヒアリング調査においては、対象者が三重県からの転出に至るまでの経緯や三重県への移住に対して抱える想いを明らかにするため、事前に大まかな調査項目を設定しておき、対象者から得た回答をインタビュアーの裁量で深掘りする半構造化インタビュー形式で実施した。調査項目は以下のとおり。

- ・ 生まれてから現在に至るまでに居住した地域
- ・ 三重県からの移住のきっかけとなったライフイベント
- ・ 三重県から転出することを決めた理由
- ・ 転出にあたっての想いとその背景
- ・ 三重県・転出先地域で感じる地域性の違い
- ・ 三重県への移住意向とその理由

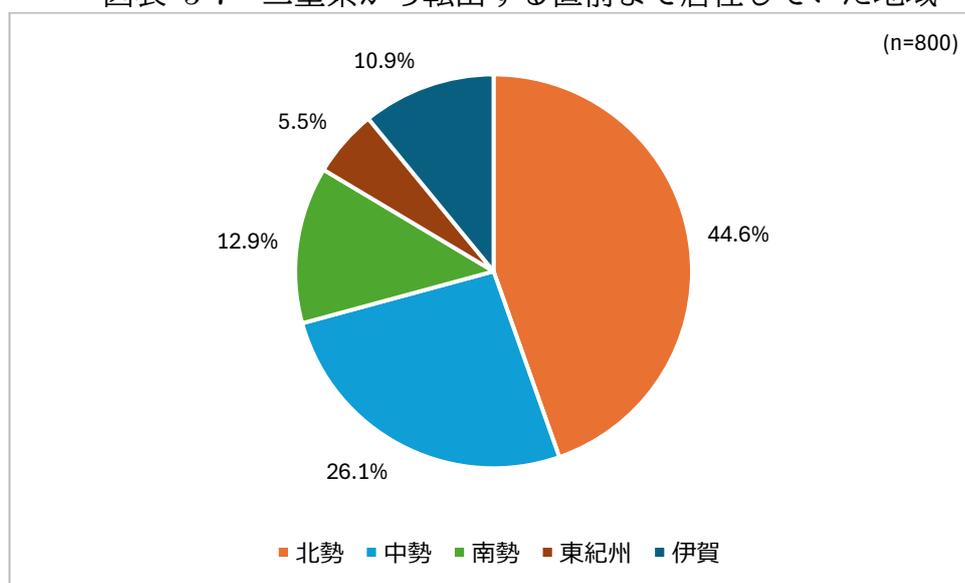
## 5.2. 調査結果

### 5.2.1. アンケート結果

#### 1) 転出元の地域

本調査における回答者が三重県から転出する直前まで居住していた地域は、北勢地域の割合が 44.6%、中勢地域の割合が 26.1%、南勢地域の割合が 12.9%、伊賀地域の割合が 10.9%、東紀州地域の割合が 5.5%であった。

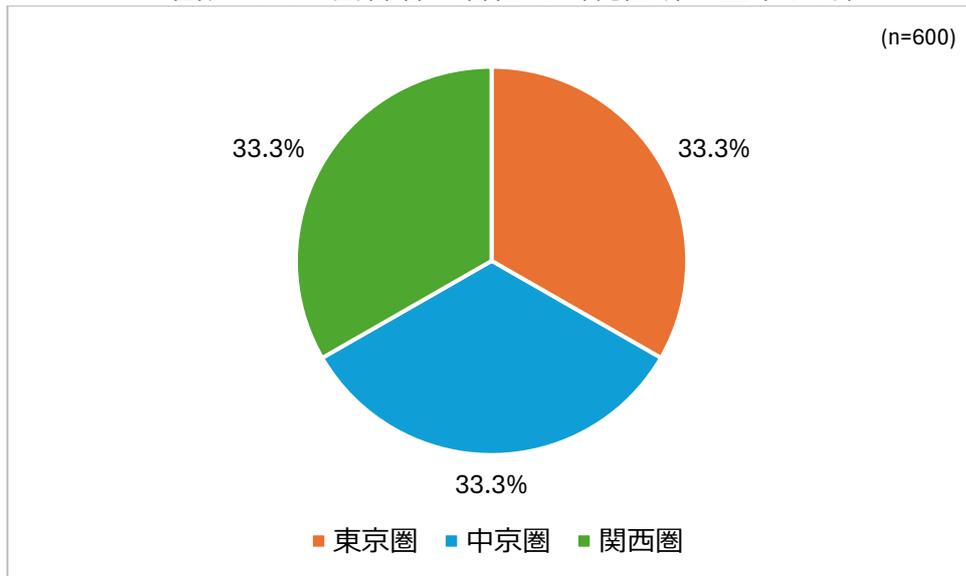
図表 5-7 三重県から転出する直前まで居住していた地域



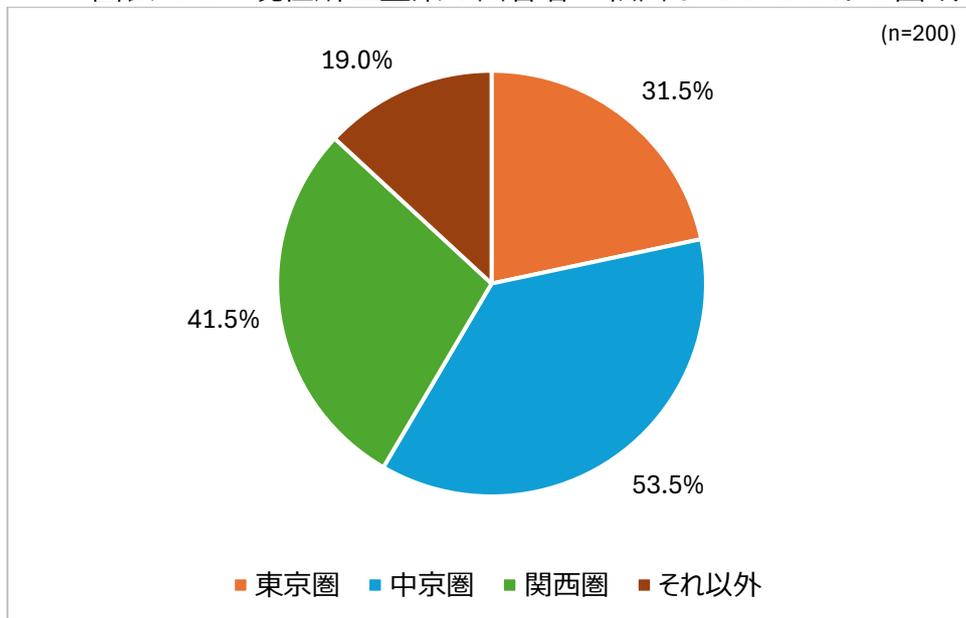
## 2) 転出先の圏域

現住所が三重県以外の回答者については、東京圏、中京圏、関西圏の各都市圏への転出者から均等に回答を得ることができた。また、現住所が三重県の回答者については、中京圏への転出経験者の割合が53.5%で最も高く、次いで関西圏の割合が41.5%、東京圏の割合が31.5%であった。

図表 5-8 回答者の居住地（現住所三重県以外）



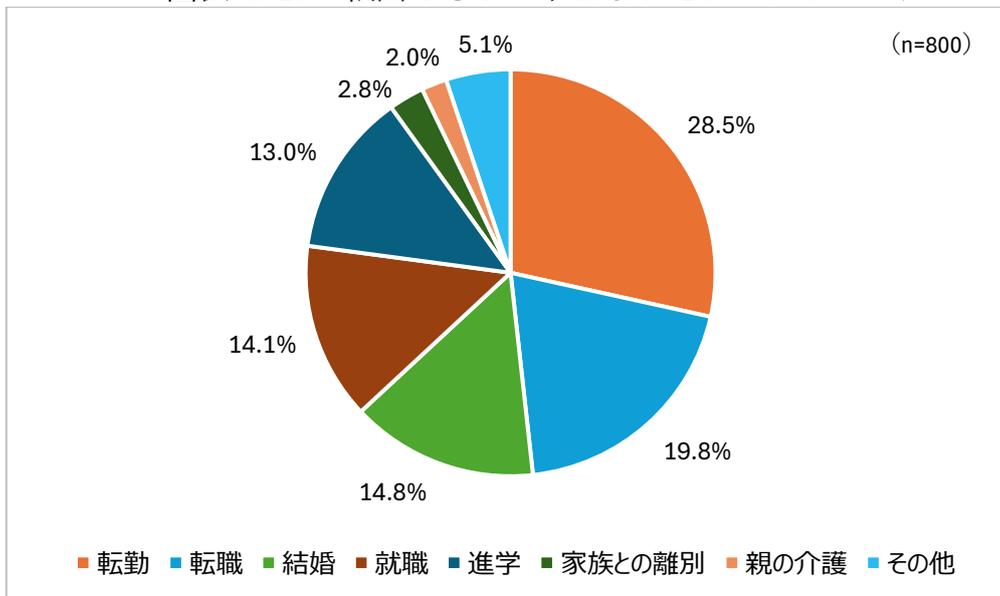
図表 5-9 現住所三重県の回答者が転出したことのある圏域



### 3) 転出のきっかけとなったライフイベント

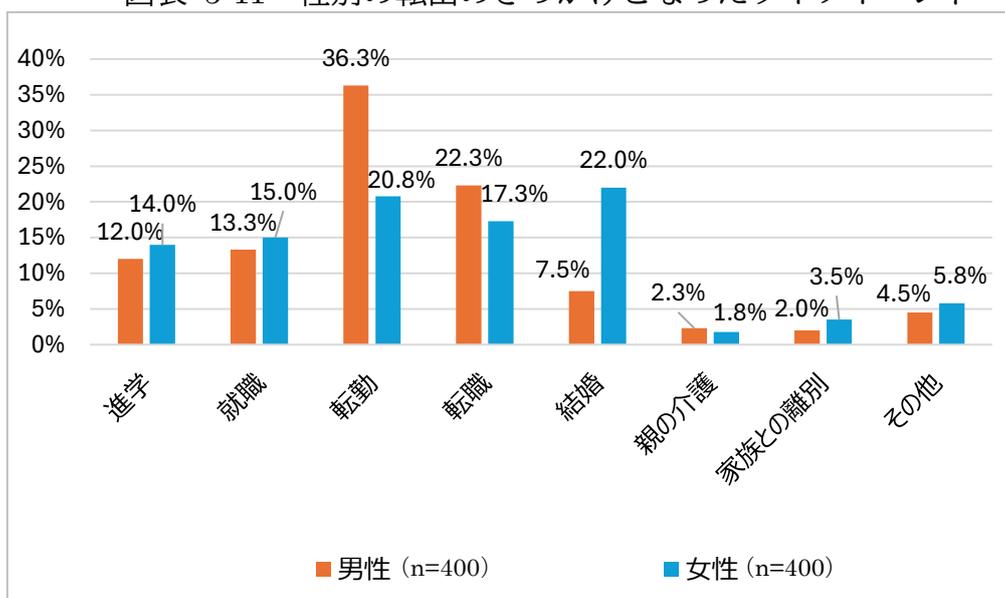
転出のきっかけとなったライフイベントについて、「転勤」の割合が28.5%と最も高く、「転職」(19.8%)、「結婚」(14.8%)、「就職」(14.1%)、「進学」(13.0%)の順に割合が高い。

図表 5-10 転出のきっかけとなったライフイベント



男性は、「転勤」(36.3%)、「転職」(22.3%)、「就職」(13.3%)の順に割合が高く、女性は「結婚」(22.0%)、「転勤」(20.8%)、「転職」(17.3%)の順に割合が高い。転出のきっかけとなったライフイベントについて性別で比較すると、結婚をきっかけとした転出が女性の転出理由の特徴である。

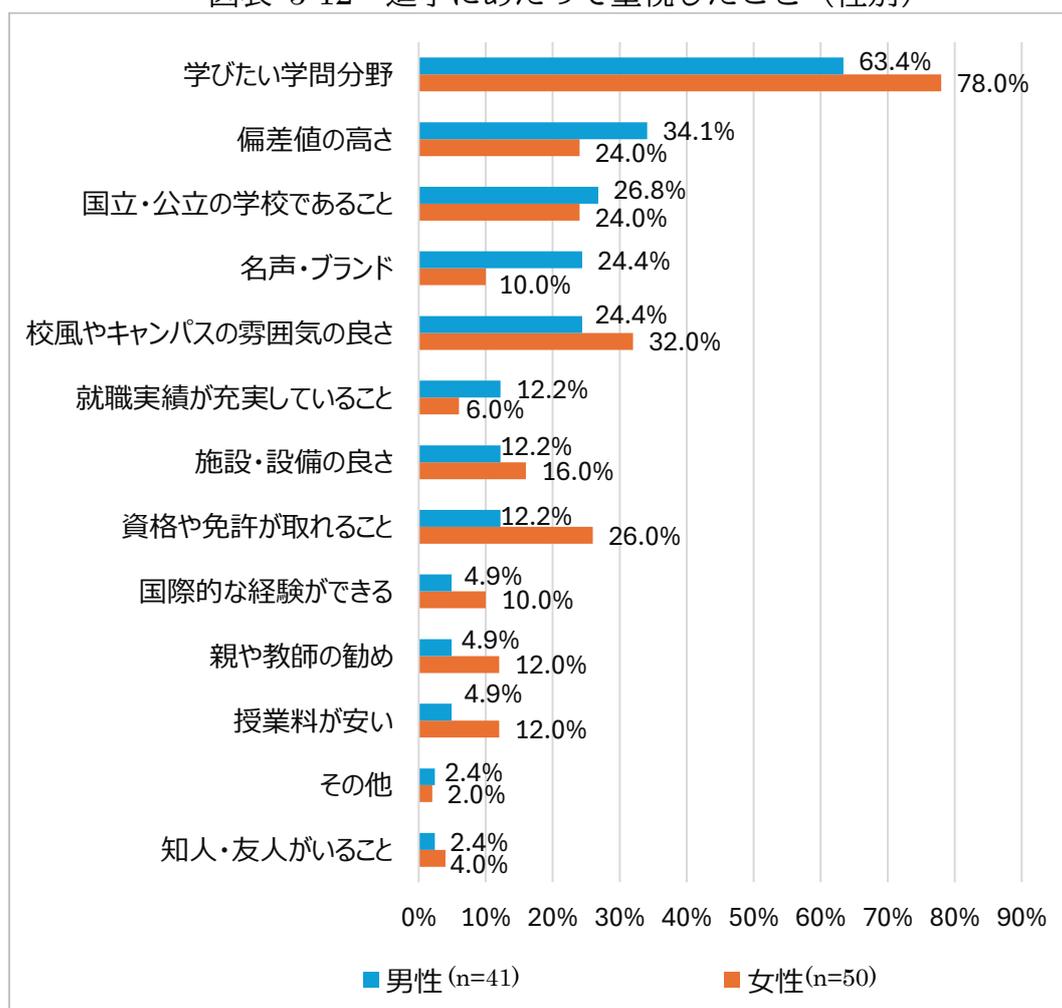
図表 5-11 性別の転出のきっかけとなったライフイベント



#### 4) 進学先を選ぶ上で重視したこと

進学先を選ぶうえで重視したことについて、男女ともに「学びたい学問分野」の割合が最も高い。男性は「偏差値の高さ」の割合が34.1%、「国立・公立の学校であること」の割合が26.8%と高く、女性は「校風やキャンパスの雰囲気の良い」の割合が32.0%、「資格や免許がとれること」の割合が26.0%と高い。

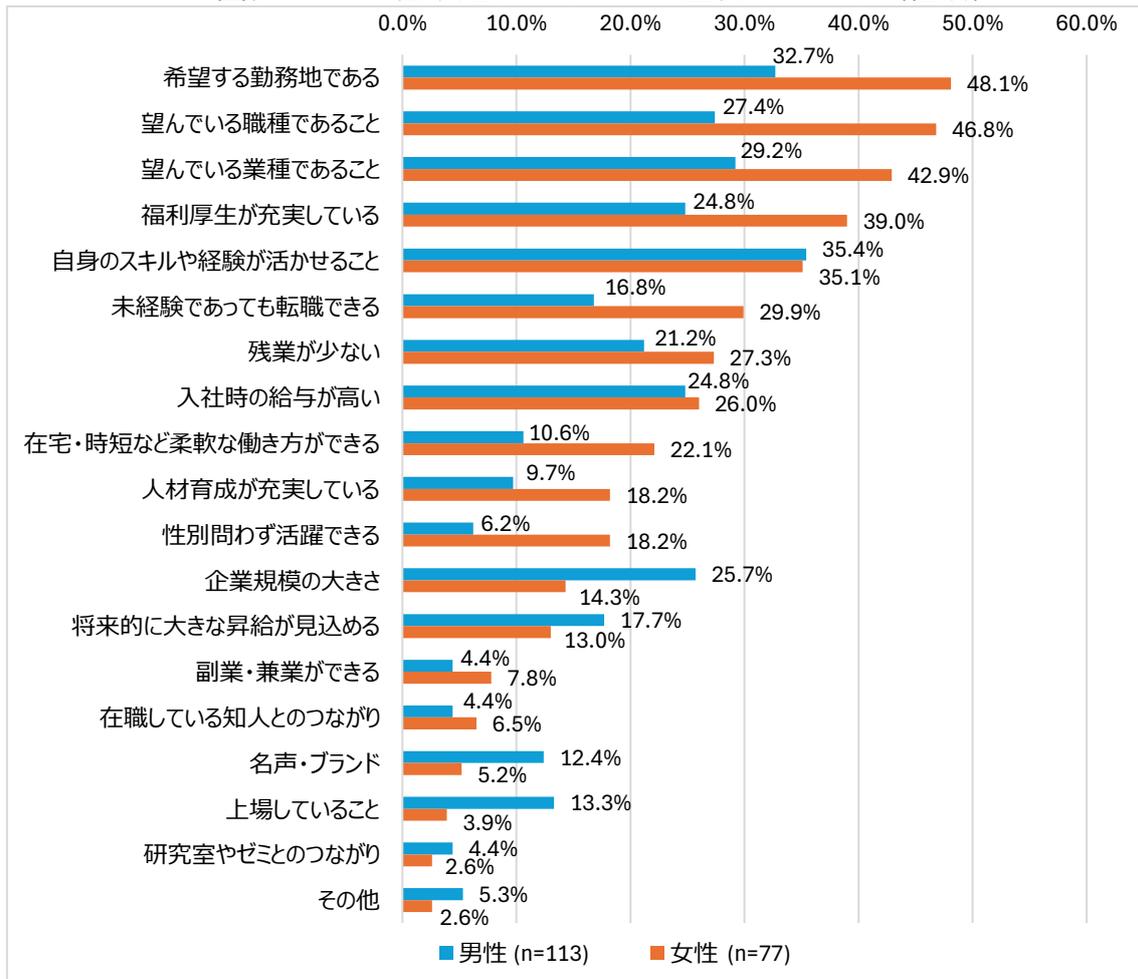
図表 5-12 進学にあたって重視したこと（性別）



## 5) 仕事選びにあたって重視したこと

仕事選びにあたって重視したことについて、男性は「自身のスキルや経験を活かせること」(35.4%)、「希望する勤務地である」(32.7%)、「望んでいる業種であること」(29.2%)の順に割合が高い。一方、女性は「希望する勤務地である」(48.1%)、「望んでいる業種であること」(46.8%)、「望んでいる職種であること」(42.9%)の順に割合が高い。

図表 5-13 仕事選びにあたって重視したこと (性別)



## 6) 家族観に対する三重県と転出先との違い

転出先の地域と三重県の家族観を比較して、三重県に対して、以下のようを感じる人の割合が高いことが明らかになった。

- ・ 女性は子育てや家庭を優先すべきと考える人が多い
- ・ 結婚して子どもをもつべきだと考える人が多い
- ・ 三重県では、子どもや家庭を持ったら仕事や自分のやりたいことをセーブすべきだと考える人が多い

また、転出先は三重県に比べて、「古い考え方に縛られずに自由に生きる女性が多い」と感じる人の割合が高いことが明らかになった。

図表 5-14 三重県と転出先における家族観に対する価値観の比較  
(n = 800)  
(単位：%)

	地域	価値観						
		まったく同意しない	同意しない	あまり同意しない	どちらとも言えない	やや同意する	同意する	強く同意する
女性は子育てや家庭を優先すべきだと考える人が多い	三重	5	8	15	38	19	11	5
		28			38	34		
結婚して子どもをもつべきだと考える人が多い	三重	3	7	20	46	15	7	3
		29			46	25		
女性に対して、子どもや家庭を持ったら仕事や自分のやりたいことをセーブすべきだと考える人が多い	三重	4	9	18	42	17	7	3
		31			42	27		
古い考え方に縛られずに自由に生きる女性が多い	三重	5	10	19	37	18	8	3
		34			37	30		
	転出先	2	5	13	42	23	12	4
		19			42	39		

## 7) 女性のキャリアに対する価値観に関する三重県と転出先との違い

転出先の地域と三重県の女性のキャリアに対する価値観を比較して、三重県に対して、以下のように感じる割合が高いことが明らかになった。

- ・ 三重は女性の求人は男性に比べて補助的な仕事ばかりだと感じる人が多い
- ・ 転出先は新しい取組に挑戦する際に周囲から協力が得られると感じる人が多い

一方で、三重県か転出先かを問わず、昇進や出世に対して消極的な女性が多いと感じる割合が高い。

図表 5-15 三重県と転出先における女性のキャリアに対する価値観の比較

(n = 800)  
(単位：%)

	地域	価値観						
		まったく同意しない	同意しない	あまり同意しない	どちらとも言えない	やや同意する	同意する	強く同意する
女性の求人は男性に比べて補助的な仕事ばかりだと感じる	三重	3	7	15	40	21	10	4
		24			40	35		
	転出先	3	9	17	43	17	7	3
		29			43	27		
昇進や出世することに消極的な女性が多い	三重	2	4	12	43	24	11	5
		18			43	40		
	転出先	2	7	15	43	19	10	4
		24			43	33		
周囲の目を気にせずに仕事に打ち込むことができる	三重	4	6	17	43	20	7	3
		27			43	30		
	転出先	2	6	14	41	23	11	3
		22			41	37		
新しい取組に挑戦する際に周囲から協力が得られる	三重	4	7	15	48	17	7	2
		26			48	26		
	転出先	2	6	14	46	22	7	3
		22			42	33		

## 8) 人間関係・コミュニティに関する三重県と転出先との違い

転出先の地域と三重県の間関係やコミュニティにおける価値観を比較して、三重県より転出先の方が、「新しい考えや地域外の人を受け入れる風潮が強い」と感じる割合が高い傾向が見られた。

また、「新たな人やコミュニティとの出会いがある」、「家族や教師の価値観に干渉されることなく自分の人生を決めることができる」については、三重県と転出先の双方で「同意する」（「強く同意する」～「やや同意する」の合計）と回答した割合が高い。一方で、転出先の方が「同意する」と回答した割合が高いため、転出先の方がよりその傾向が顕著であると感じている人が多いことが明らかとなった。

図表 5-16 三重県と転出先における人間関係・コミュニティの違い  
(n = 800)  
(単位：%)

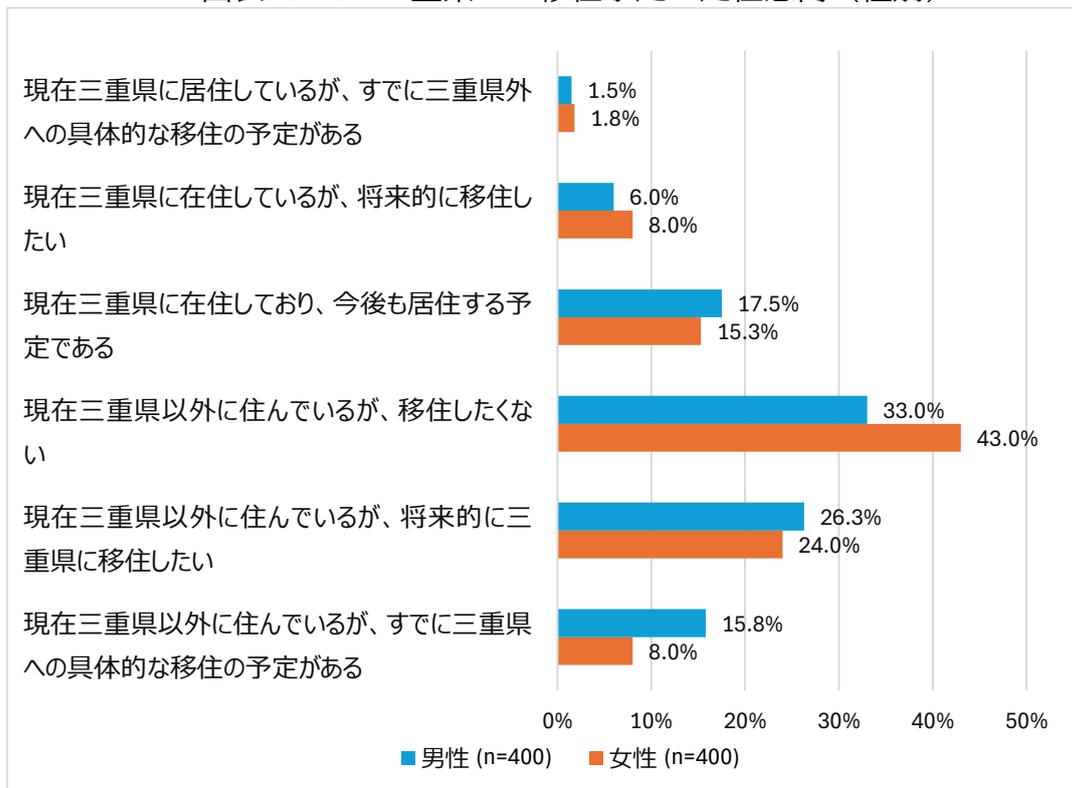
	地域	まったく同意しない	同意しない	あまり同意しない	どちらとも言えない	やや同意する	同意する	強く同意する
		34			28	38		
頼れる知人・友人がいる	三重	10	10	15	28	22	11	5
	転出先	6	8	14	37	20	11	5
家族や教師の価値観に干渉され ることなく自分の人生を決 めることができる	三重	4	7	14	39	21	12	3
	転出先	2	4	11	42	23	13	5
新たな人やコミュニティとの 出会いがある	三重	6	8	17	35	21	9	4
	転出先	3	6	13	36	21	15	6
新しい考えや地域外の人を受 け入れる風潮がある	三重	7	8	17	40	17	9	3
	転出先	3	6	11	40	22	14	6

## 9) 三重県への移住・定住意向

三重県在住者（全体の 25.0%）のうち、県外への移住意向を持つ人の割合は、男性が 6.0%、女性が 8.0%であった。

三重県外在住者（全体の 75.0%）のうち、三重県への U ターン意向を持つ人の割合は、男性 26.3%、女性 24.0%であり、三重県への U ターン意向を持たない人の割合は、男性は 33.0%、女性は 43.0%であった。男性に比べて女性の方が三重県への U ターン意向を持つ人の割合が低いことが明らかになった。

図表 5-17 三重県への移住予定・定住意向（性別）



## 5.2.2. ヒアリング結果

本項ではヒアリング調査の結果、得られたコメントのみを記載し、転出要因や三重県への移住意向に対する分析結果は後述する。

### (1) 転出の理由

#### 1) 進学をきっかけに転出した女性の転出理由

進学をきっかけとした転出理由は、「進学したい学科・分野要因」、「偏差値要因」、「生活環境要因」、「家庭事情要因」の4つに分類される。

図表 5-18 進学をきっかけに転出した女性の転出理由

理由（大区分）	理由（小区分）	ヒアリングにより得られたコメント
進学したい学科・分野要因	英語を学びたかったため	中学生の頃から英語が好きで、英語を学べる学校を探していた。国際コミュニケーション学科があり、英語やパソコンスキルを学べるため、進学を決めた。 英語系の学科を希望したが、当時、県内に希望する学科がなかったため大阪に進学した。
	看護・福祉系に進みたかったため	親しくしていた友人と合わせて看護・福祉系の大学に進みたかった。
		看護の道に進みたいと思っていたところ、塾の先生から京都の大学を紹介され、進学を決めた。
	先端工学（生命科学・音響工学）を学びたかったため	自分が研究したい分野の研究室が三重県になかった。東京の大学を見ていたところ、希望する分野の研究室があったため、進学を決めた。
		音響工学を学びたいという目標があり、それを学べる大学を探した。
	人文科学（人間科学・社会学）を学びたかったため	東京の大学で人間科学部を見つけて、文理どちらの学問も学べるということで関心をもった。
三重大学で社会学を学ぶなかでより深く研究したいと考えるように至り、大阪大学に編入した。		
法学部に進みたかったため	就職においてネームバリューが強く、人とのコネクションに長けている法学部に進みたいと考え、京都の大学に進学した。	
偏差値要因	安定志向（自分の学力で、背伸びせずに届く範囲で進学したかったため）	関西の大学をいくつか受けて、たまたま神戸の大学に行くことになった。
		学業は苦手であったが、先生から留年・退学もしてほしくないと言われていたため、自分の学力で入学できる大学に進学した。

理由（大区分）	理由（小区分）	ヒアリングにより得られたコメント
	上昇志向（より高いレベルの大学にいきかけたため）	父が京都大卒で、負けず嫌いであったため越したい一心で東大を目指した。
		学力が伸びる中でレベルの高いところを志望するようになった。
		自分の学力に見合う大学に進学しようと考え、東京大学か京都大学に行くことを考えた。
		大学選択の際は、ネームバリューがあり、指定校推薦の枠がある大学を関東、関西も含めて探していた。
		ネームバリューのある偏差値の高い大学に進学したいと考えていた。
生活環境要因	転出先の魅力的な店や文化的な場所が身近にある生活環境に魅力を感じていたため	お笑い関連のことが好きで関西に魅力を感じていた。
		親戚が東京に住んでいたこともあり、幼い頃から東京への憧れがあったため、大学を選ぶ際も東京の大学から選んだ。
		都会への憧れがあり、東京に住むと決めていた。
	三重の生活環境に不満があり、脱却したいと思っていたため	三重は田舎という印象を持っていたため、別の地域に住んでみたいと思った。
		三重は田舎という印象があったため、人との交流が盛んな都会に出たかった。
一人暮らしをしたと考えていたため	大学選びの前に、まず一人暮らしがしたいと考えていた。母から関西なら自分も行きやすいと勧められた。	
	一人暮らしを経験したいという思いが強く、京都への進学を決めた。	
家庭事情要因	進学する地域・大学について親から勧めがあり、その勧めに従ったため(本人の意思は薄い)	親が「うちの子は東京の大学に通っている」と言いたかったのか、滑り止めも東京の選択肢を親から提示された。学科は自身の意志だが、東京を提示したのは親。

## 2) 就職をきっかけに転出した女性の転出理由

就職をきっかけとした転出理由は、「希望する職種要因」、「居住環境要因」の2つに分類される。

図表 5-19 就職をきっかけに転出した女性の転出理由

理由（大区分）	理由（小区分）	ヒアリングにより得られたコメント
希望する職種要因	大学で学んだことを活かすため	就活時はコロナ禍で地元の伊賀市では求人がほとんどなかったこと、そもそも伊賀市には研究開発部門の求人がなかったことを背景に、大阪を中心に就活した。
		大阪本社で伊賀に研究所がある化粧品メーカーに入社した。一時的に本社付近に引っ越したが、すぐに研究所配属になり伊賀にUターンした。
居住環境要因	都会的なライフスタイルにあこがれていたため	都会に住んで生活したかったため東京の病院に就職した。

## 3) 結婚をきっかけに転出した女性の転出理由

結婚をきっかけとした転出理由は、三重県外に住む配偶者と同居するために三重県から転出する「配偶者要因」であった。なお、本調査においては結婚をきっかけに配偶者が三重県に転入するケースはなかった。

図表 5-20 結婚をきっかけに転出した女性の転出理由

理由（大区分）	理由（小区分）	ヒアリングにより得られたコメント
配偶者要因	夫の勤務先に近い地域に引っ越し、同居するため(転出後はパートもしくは専業主婦)	夫が豊田市の出身で、豊田周辺に勤めていたので、近くの岡崎市に住んだ。
		実家を継ぐために仕事を辞めて名古屋に移住した夫と同居するため転出した。
		夫は名古屋で働いていたので、夫が住んでいる地域に移住した。引っ越しに伴って家事に専念するため仕事を辞めた。
	夫の勤務先に近い地域に引っ越し、同居するため(転出後は転職して正社員として勤務)	結婚を機に夫の住む知多と住んでいた桑名の間地の名古屋に引っ越した。仕事は結婚前と変わらずに続けている。

#### 4) 転勤をきっかけに転出した女性の転出理由

転勤をきっかけとした転出理由は、自身への異動辞令による「自身の職場要因」と配偶者への異動辞令による「配偶者の職場要因」の2つであった。

図表 5-21 転職をきっかけに転出した女性の転出理由

理由（大区分）	理由（小区分）	ヒアリングにより得られたコメント
自身の職場要因	自分への異動辞令による転職	岐阜の医療関係の会社に就職したのち、三重に配属された。津市で5年間働いたのち、会社の辞令で岐阜に異動した。
		三重の実家から通える名古屋の会社に就職したが、辞令で東京勤務になった。
配偶者の職場要因	配偶者への異動辞令による転職	職場の同僚と結婚後、夫の転勤に伴って愛知から三重、三重から愛知と引っ越した。
		名古屋で就職し、そこで夫に出会った。結婚後は夫の転勤に伴って三重（四日市）から岩手に引っ越した。
		愛知の広告代理店に就職後、2社転職して結婚。結婚後は夫が住む四日市に住んだのち、夫の転勤を機に名古屋に戻った。

### (2) 三重県から都市圏への転出経験をもつ女性が感じた地域性の違い

#### 1) 働き方に関する地域性の違い

図表 5-22 働き方に関する地域性の違いが転出・移住意向に与えた影響

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無（Uターン含む）	地域性の違いがUターン意向に与えた影響（ヒアリングにより得られたコメント）
三重は転出先に比べて選択できる仕事の幅が狭く、優良な働き先が行政か銀行しかない	影響なし	—	移住意向なし	三重にいた頃、家族と先生以外の大人に合ったことがないため三重に住みながら務めることができる仕事が想像できていない。
	影響なし	—	移住意向なし	三重に戻りたいものの、自分の意向（生活に余裕のある収入、土日休み等）に見合う就職先が行政しかないとため、都内の就職先も並行して探している。
	影響あり	三重での働き先をイメージできず、働くならば名古屋だと決めていた。	移住意向なし	影響なし

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
三重で就職することを前提とした場合、実家から通える範囲の仕事の中から自分のできるものを選ぶ。それに対して、都市部の転出先では就きたい仕事で住む先を選ぶ	影響なし	—	移住意向あり	三重の実家で家族と暮らしながら働きたい意向が強い。
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
三重でも転出先でも同じ職場内で男女による雇用形態や給与面での差を感じたことはない	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	既に移住済み	家族と暮らしながら働きたい意向が強かったため実家から通える範囲でUターンした。
三重でも転出先でも同じ職場内で男女による雇用形態や給与面での差を感じたことはない	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向あり	影響なし
三重では仕事内容が同じでも男女の雇用形態(正規/非正規)や給与の差が大きかった	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
三重でパートするうえでは子育て世代の母親が多く、子育てするうえでの用事や制約に理解を得られやすい	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
三重では会社の中核的な仕事は男性が担い、補助的な仕事は女性が担うことが多い	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
勤め先の人手不足深刻なため労働環境が劣悪であった	影響あり	三重の勤務先の病院が人手不足で子育てとの両立が難しかった。	移住意向なし	地域性の問題ではないが、三重県を含む人手不足が深刻な地方では現実的に働き続けられない。
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし

## 2) 家事・育児に対する地域性の違い

図表 5-23 家事・育児に対する地域性の違いが  
転出・移住意向に与えた影響

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
三重の実家では母親は正社員として働いていなかったのに対して、都市部では女性も働いている	影響なし	—	Uターン意向あり	出産・育児中も自分は正社員として働きたい。そのうえでは両親の協力が必要。
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
三重の親世代には適齢期になったら女性は結婚すべきと考える人がいるが、都市部は多様な価値観をもった人がいるため結婚しなくとも目立つことはない	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
自ら望んで家事・育児を請け負ったため、どの地域においてもジェンダーギャップを感じたことはない	影響なし	—	移住意向あり	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
家族の支援を得られる三重の方が仕事と育児を両立しやすい	影響なし	—	移住意向あり	子育てをするうえで三重に戻って両親の力を借りたい。
	影響なし	—	既に移住済み	影響なし
三重よりも転出先の方が子育てと仕事を両立するうえでの公共サービスが手厚い	影響なし	—	移住意向あり	影響なし
	影響なし	—	移住意向なし	影響なし

### 3) コミュニティ・人間関係に対する地域性の違い

図表 5-24 コミュニティ・人間関係の地域性の違いが転出・移住意向に与えた影響

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
都市部は人があまりにも多くて暮らす上でストレスを多く感じる	影響なし	—	移住意向なし	影響なし
三重では地域の人同士つながりがあったのに対して、都市部では近所づきあいがなく、コミュニティに	影響あり	三重の実家での親戚づきあいや近所づきあいを避けるため県外に転出した。	移住意向なし	影響なし
	影響なし	—	移住意向あり	転出先の京都に比べて三重は人柄がよく、生活する

地域性の違い	地域性の違いが転出の判断に与えた影響		三重への移住意向の有無 (Uターン含む)	地域性の違いがUターン意向に与えた影響(ヒアリングにより得られたコメント)
対して選択的である				うえでの環境が良いと感じる。
	影響あり	地域特有のコミュニティや近い人間関係が苦手であったことが後押しして県外の大学を探した。	移住意向なし	都市に住んでみて、人間関係がドライな方が生活しやすいと感じた。三重と比較して戻ることさらに後ろ向きになった。
都市部の方が、地縁に左右されずに自分の志向に近い人との人間関係をつくりやすい	影響なし	-	既に移住済み	影響なし
三重の方が都市部よりも人間関係が排他的であり、他所から三重に来た人に対して厳しいと感じた	影響あり	元々三重に住み続けるつもりはなかったが、排他的な土地柄だと感じ、転出を後押しした。	移住意向なし	三重に住んでいた頃感じていた排他的な印象から移住するつもりはない。

### 5.2.3. 若年女性の転出要因

#### (1) 転出要因の総括

ヒアリング調査の結果から、三重県から転出した女性はライフイベント（進学、就職、転職、結婚等）を主たる理由として居住地を決定していることが明らかになった。また、三重県や転出先の地域性（男女の働き方の違いや家族観に関するジェンダーギャップ、コミュニティや人間関係の違い等）は、それ自体が居住地を変更させるまでには至らないが、ライフイベントが発生した際に居住地を決定する際の判断に影響を及ぼすことが判明した。

上記を踏まえ、居住地変更及び決定に対して、決定的な影響を与える要因を「主要因」、主要因ほどの影響は持たないものの居住地の意志決定を後押しする要因を「補助要因」と定義し、下表のとおり整理した。

各要因の影響力は人によって異なるが、各要因を総合的に判断して居住地を選択しているものと考えられる。

図表 5-25 転出要因の分類

区分	定義	各要因
主要因	人生のターニングポイントと密接に関わり、居住地決定の判断に決定的な影響を与える要因	①学校選択 ②仕事の選択 ③パートナーとの居住
補助要因	日々の生活と密接に関わり、多くの場合それ自体では居住地変更までには至らないものの、ライフイベントにおいて居住地の変更を促しうる要因	④公共交通の利便性 ⑤実家との物理的な距離 ⑥人間関係・コミュニティ ⑦周囲の目線・価値観 ⑧生活環境 ⑨趣味 ⑩子育て環境

#### 1) 主要因の分析

##### ①学校選択

高校で進学校に通っていた人は、大学の偏差値の高さ及び学びたい分野を学ぶことができることを優先して進学先を選択する傾向にある。県外の方が大学の数が多く、学科及び偏差値において選択の幅が広いと認識されていることから、県外への進学を選択する傾向がある。また、進学段階で上昇志向が強い人は、よりよい条件（高収入・福利厚生）、自分の能力を活かせる仕事を求めて、都市部の就職先を選択する傾向が強く、三重県へのUターンの意向も低い傾向にある。

一方で、進学時に三重県内の実家から通うことができることを条件にして進学先を選ぶ層については、就職先も県内に居住して通うことができる

難易内で選ぶ傾向にある。

## ②仕事の選択

就職先に求める主な要素として「自分の専門性や学んだことを活かせること」、「何らかの成長に繋がること」、「働き続けやすい環境であること（土日休み、育児のしやすさ）」、「社会的なステータスや知名度、給与の高さ」が挙げられた。仕事の選択にあたっては、これらの要素を総合的に評価して判断をしていると考えられる。

県外に進学した人は、進学までに社会との関わりが少ないために、三重県内での働き方の想像がつかず、三重県内において行政・銀行以外に上記の要素を満たす働き先がないと考える人が多く見られた。

また、働き方についてジェンダーギャップを感じている人もいるが、それが主理由となって転出を決断した人は確認されてはおらず、主要な転出要因にはなっていない。他方で、三重県内に居住して働いていた人の中には、人手不足が起因して残業時間が過剰になったり、休暇を取れなかったりした結果、退職・転出したケースが見られた。

## ③パートナーとの居住

ヒアリングにおいて、県外に住むパートナー（男性）と結婚した場合、パートナーの居住エリアに転居するケースが多く見られ、転出意向がない女性が結婚を機に転出しているケースも確認された。特に女性が医療等の専門職に就いている場合や正社員で働くことへのこだわりが薄い場合、転出へのハードルが低くなると考えられる。

一方で戸建て住宅の購入を検討する場合や実家を相続する場合、親との同居等をきっかけに、三重県内への U ターンに至るケースがある。

## 2) 補助要因の分析

### ④公共交通の利便性

ヒアリング対象者が県内で居住していた場所から主要な駅までの距離、車の有無によって交通の利便性に対する評価は大きく異なる。特に車を持たない若い世代は公共交通の利便性に対する不満を感じやすい。また、三重に住みながら県外の大学や職場に入った人は、移動の不便さから通学・通勤先の近くへ転出するケースがある。

### ⑤実家との物理的な距離

就職時に三重県内にある実家に戻ることを前提とする層が存在しており、この層に該当する人は、仕事の内容よりも実家から通える範囲にあることを優先する傾向にある。また、親の介護や相続を見据えて将来的な U ター

ンを視野に入れている人もいるが、「移住した際に同じ内容の仕事に就けるか」、「同等の条件（給与・休み）で働くことができるか」という点を懸念している。

なお、自己の成長や興味の時間を充実させたいことを理由に、「一度は実家を離れて暮らしたい」と考えて転出するケースや、「せっかく一人暮らしするのであれば都市部に住んでみたい」という理由で転出するケースも見られるが、上記の場合でも一人暮らしの苦労や経済的な事情から就職時にUターンに至っているケースもみられることから、実家との距離感が、転出の補助要因として機能することがあるものの、必ずしもUターンを阻害するものではないことが明らかになった。

#### ⑥人間関係・コミュニティ

ヒアリングでは、三重県における人間関係・コミュニティの特性として、地縁に基づく人間関係の暖かさと近所の噂話で意図しない情報が広まってしまう等の匿名性の低さの両方が挙げられた。そのような人間関係・コミュニティの特性を心地よいと感じている人、そのような地域の人間関係の弱い都市圏の方が心地よいと感じている人の両方が見られた。個人によっても感じ方が異なるため、人間関係・コミュニティが一概に転出を促す要因になっているとは言えない。

#### ⑦周囲の目線・価値観

高校までの間に多様な価値観に触れる機会がないことが転出の後押しとなっているケースが見られた。特に、より高い偏差値の大学に進学したい女性にとって顕著にみられる傾向である。また、「都会の方が多様な価値観がある」、「自分と同じ価値観を持つ人と関わる機会が多だろう」という期待感から、都会を魅力的に捉えられている傾向が見られた。

なお、ヒアリングにおいては、女性の働き方や家庭における役割に対する分担意識や規範意識によってUターンを阻害される、転出するというケースは見られなかったため、女性の働き方や家庭内の役割分担、規範意識は、転出を促す要因になっていないものと考えられる。

#### ⑧生活環境

人が多く寛容性が高いこと、夜でも遊べる環境がある等、都会的な暮らしへのあこがれが転出を促進する要因となっている。

#### ⑨趣味

音楽やスポーツ等の趣味を持つ人にとっては、エンターテインメントのイベントが開催される大型施設等が豊富な都市部の方が魅力的に見えるため、都市部へのアクセスを考慮して居住地を選択する傾向にある。

#### ⑩子育て環境

出産後も共働きすることを想定している人にとっては、三重県に住む両親等の支援を受けることができることが魅力になっているケースが見られ、三重出身者、かつ、三重県内で出産した人にとっては、県内への居住を継続する要因の1つになっているものと思われる。一方、県外で出産した人から、「都市部は学校や習い事等、子どもの将来の選択肢が多いこと」、「県外の子育ての支援が充実していること」を高く評価している意見も見られたことから、子育て環境が県外からのUターンを促す要因にはなっていないものと考えられる。

### (2) 若年女性のライフデザインに関する指向性の整理

転出した理由及び県内に留まる/Uターン可能性に関する理由のヒアリングから、若年女性のライフデザインに関する指向性を、以下の8つに分類した。また、各ライフデザインに関する指向性ごとに転出傾向と県外転出やUターンの意向の変更可能性を比較した。例として、ステータス・名誉志向型や自由・冒険型は転出の意向が強く、Uターンの可能性も低いのに対し、家庭重視型や現状維持・保守型は対策によっては県内の定住を促したり、Uターンを促したりすることが可能であると考えられる。

図表 5-26 若年女性のライフデザインに関する指向性の8類型

ライフデザインに関する指向性の類型	特徴	居住地決定に強い影響力を持つ要素	
		主要因	補助要因
成長重視型	やりたいことは決まっていないが、スキルアップや成長が見込める大学・会社に入ることを目標に努力するタイプ	①学校選択 ②仕事の選択	⑦価値観
ステータス・名誉志向型	通う大学や勤め先に対して社会的ステータスの高さ及び相応の給与を求めるタイプ	①学校選択 ②仕事の選択	⑦価値観 ⑧生活環境
自由・冒険型	新しい場所や仕事、機会を求めて住む場所や職場を転々とするタイプ。閉鎖的なコミュニティ・土地柄を嫌う。	①学校選択 ②仕事の選択	⑥人間関係・周囲の目線 ⑦価値観
趣味・余暇優先型	学業や仕事よりも趣味や余暇に充てる時間を重視するタイプ。趣味の内容・重要度によっては、趣味に没頭できる地域に居住地を移すこともある。	①学校選択 ②仕事の選択 ⑨趣味(場合によっては主要因になり得る)	④公共交通の利便性
経済的自立重視型	親から経済的に自立することを重視するタイプ。親との関係をできるだけ断ちたいという場合もあるが、多くの場合は経済的に自立することで成長したいという意図が強い。	①学校選択 ②仕事の選択	⑤実家との物理的な距離
探求・好奇心型	眼前にある関心ごとを追求するために行動するタイプ。雇用条件や居住地よりも仕事内容を重視する。	①学校選択 ②仕事の選択	⑨趣味
ワークライフバランス型	仕事や家庭、趣味のバランスを重視するタイプ。仕事には平均的な雇用条件(休み・給与)を求める。	②仕事の選択 ③パートナーとの居住	④公共交通の利便性 ⑩子育て環境
安定・生活基盤重視型	環境の変化を避け、可能な限り現状維持したいタイプ。結婚後は専業主婦やパートになることもいとわれない。配偶者の異動など、受身な理由で居住地を決める。	②仕事の選択 ③パートナーとの居住	④公共交通の利便性 ⑤実家との物理的な距離 ⑥人間関係・周囲の目線 ⑩子育て環境

図表 5-27 類型ごとの転出傾向及び県外転出意向の変更可能性の整理

ライフデザインに関する指向性の類型	自らの意志による転出意向		県外転出意向の変更可能性 (Uターンを含む)	
	転出傾向	左記の主な理由	変更可能性	左記の主な理由
成長重視型	強い	県内に成長できる学校や職場がない(あったとしても視界に入っていない)	やや高い	三重県内で成長した人のロールモデル・県内で成長できる環境を示すことで留まる/Uターンの可能性あり
ステータス・名誉志向型	強い	高偏差値な大学、就職時に有利となる学科を有する大学が県内にない	やや低い	都市部の方が高偏差値な大学や大企業が多いため、能力的・経済的に問題がなければ県内に留まるもしくはUターンする可能性は高くない
自由・冒険型	強い	閉鎖的で流動性のない土地柄を避け、刺激にあふれた環境を求める	低い	地方特有の地域性との相性が悪いため、県内に留まるもしくはUターンする可能性は低い
趣味・余暇優先型	やや強い	県内で趣味を十分に楽しめない場合、趣味に関するスポットへのアクセスが良い場所に移る	低い	県内で趣味を十分に楽しめない場合、県内に留まるもしくはUターンする可能性は低い
経済的自立重視型	やや強い	進学もしくは就職のタイミングで親元を離れることを目的に独り立ちする	やや高い	県内で十分に経済的に自立できる仕事を提示することができれば転出せずに県内に留まる可能性あり
探求・好奇心型	やや強い	進学の段階で自分の関心のあるテーマを研究するために最適な学科や研究室がある大学が県内にない	低い	都市部の方が学べる分野や仕事の幅が広いことから、県内にある学科や仕事との相性が合わない限り、県内に留まるもしくはUターンする可能性は低い
ワークライフバランス型	やや強い～やや弱い	職場の人手不足等によって、理想とするワークライフバランスを維持できなくなる	やや高い	県内でもワークライフバランスを維持したフレキシブルな働き方ができる職場を示すことで、県内に留まるもしくはUターンの可能性あり

<p>安定・生活基盤重視型</p>	<p>弱い</p>	<p>転出意向は低い（配偶者の県外転勤に同伴するために転出するケース以外は基本的に転出しない）</p>	<p>高い</p>	<p>県内に住むパートナーと出会う機会を提供することができれば、移動不要なため県内に留まる可能性が高い。 また、名古屋周辺に住む一軒家購入を検討している世帯であれば、勤め先を変えずに都市部より割安に購入可能な北勢エリアがUターンの選択肢になる</p>
-------------------	-----------	---	-----------	---

### (3) 若年女性の流出抑制及び移住促進に向けた施策の方向性

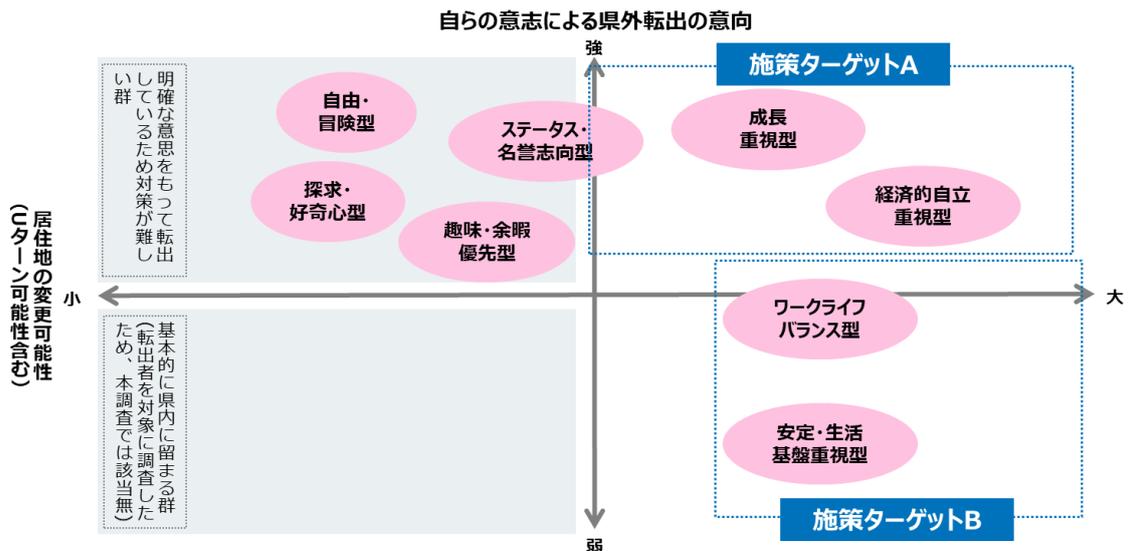
#### 1) 施策のターゲット

若年女性のライフデザインの指向性ごとの転出傾向や居住地変更可能性等を比較検討し、若年女性の人口減少対策の施策を実施するターゲットを定めた。

その結果、自らの意志による県外転出の意向が強く、居住地の変更可能性が高い群（成長重視型、経済的自立重視型）を施策ターゲット A、自らの意志による県外転出の意向は弱く、居住地変更可能性の高い群（ワークライフバランス型、安定・生活基盤重視型）を施策ターゲット B として定めた。

一般的に従来の移住促進やUターン促進施策は、ターゲットを定めることなく対象者を広く一様に捉えて実施されてきたが、より効果的・効率的に人口減少対策を進めるためには、ターゲット毎のニーズをとらえた上で施策を検討するアプローチが有効であると考えられる。

図表 5-28 転出傾向及び居住地の変更可能性を踏まえた施策ターゲット



#### 2) 施策の方向性

##### ① 成長重視型

【居住地を決めるうえでの特徴】

成長重視型の女性は主に進学、就職、転職をきっかけとして転出する。進学にあたっては、学科に強いこだわりがあるわけではないが、可能な限り偏差値が高い国公立の大学に進みたいという意向をもつ傾向にある。

また、仕事選び（就職・転職）にあたっては、世間体や雇用条件よりも自分が幅広い経験を積めるかどうか、将来的に役立つスキルを身に

つけられるかどうか、という点を重視する傾向にある。

#### 【施策の方向性】

成長重視型の女性に対して、進学段階では、入学時の偏差値だけでなく、競争力のある研究室で学ぶことができることや取得できる資格等を訴求することが効果的であると考えられる。

また、仕事選びにあたっては、入社後の仕事内容や活かせる経験・知識を開示するよう県内企業に働きかける等、入社後にどのように成長が可能かを想像しやすくなるような情報提供を行うことが効果的であると考えられる。

以下、具体的な施策の例を記載する。

##### <進学希望者に対する施策例>

- ・ 県内進学者への留学支援制度の拡充
- ・ 県内高校生とOB・OG並びに大学との交流促進 等

##### <就職・転職希望者に対する施策例>

- ・ 県内企業のインターンシップの質の底上げ（説明会からの転換）
- ・ 県内企業に対する学生アルバイト採用の強化呼びかけ
- ・ 県内で成長意識をもって働く社会人と学生との接点強化（一回限りのイベントではなく、定期的な接点を作る）
- ・ 企業の就職後に得られるスキル、それらを活かしたキャリアの可視化、情報発信
- ・ 人材育成、資格取得等のスキルアップにつながる取組を行う企業へのインセンティブ付与 等

## ②経済的自立重視型

#### 【居住地を決めるうえでの特徴】

経済的自立重視型は主に進学、就職、転職をきっかけとして転出する。進学にあたっては、奨学金を利用できる進学先かどうか、一人暮らしをするうえでの生活費を賄える環境かどうか、という点を重視する傾向にある。

また、仕事選びにあたっては、一人暮らしをするうえで、生計を立てられる就業条件（社宅提供・賃金など）が整っているかどうかという点を重視する傾向にある。

#### 【施策の方向性】

経済的自立重視型に対しては、就職、転職の段階で県内の事業者に着職した方が経済的なインセンティブが大きいと感じてもらえるようにすること、県内事業者の就労条件（福利厚生・賃金）のさらなる改善

を促すことが効果的であると考えられる。また、経済的な自立が可能  
なように資格やスキルアップを支援することで、県内の就職の後押し  
となる可能性がある。

以下、具体的な施策の例を記載する。

<就職・転職希望者に対する施策例>

- ・ 県内事業者就職した場合の奨学金の返済要件の緩和
- ・ 中小・零細企業で働く若年層に対する単身者向け住宅の確保
- ・ 通勤にあたってのコスト低減（中古車含む自動車購入時の補助等）
- ・ 人材育成、資格取得等のスキルアップにつながる取組を行う企業へのインセンティブ付与 等

### ③ステータス・名誉志向型

【居住地を決めるうえでの特徴】

県外転出意向が強いステータス・名誉志向型は、進学、就職をきっかけとして転出する傾向が強い。進学時は、学校の知名度や就職にあたって企業等から高い評価を得られるかどうかを重視して進学先を選択する傾向にある。

仕事選びにあたっては、大企業・知名度の高い企業やその系列企業であること、家族や友人・知人から高い評価を得られる就業先かどうかを重視する傾向にある。

【施策の方向性】

県外転出意向が強いステータス・名誉志向型に対して、進学時点で県外への転出を防ぐことは難しいことから、仕事選びの段階でのUターンを促すアプローチが重要であると考えられる。県内にもステータス・名誉志向型にとって魅力的な就業先が存在することを周知すること（高校までの生活で認知することは難しい BtoB の大手系列企業や外資系事業者等を PR すること等）が有効と考えられる。

以下、具体的な施策の例を記載する。

<就職・転職希望者に対する施策例>

- ・ 転出前の高校までの段階で県内大手企業、外資企業を周知
- ・ みえフェスと連携した県内大手企業の周知及びインターン等への参加促進
- ・ 県内事業者の都市部におけるマッチングイベントへの参加促進（大手メーカー志望者やメーカーに勤める転職志望者がメインターゲット） 等

#### ④ワークライフバランス型

##### 【居住地を決めるうえでの特徴】

ワークライフバランス型の女性は、転職やパートナーとの同居をきっかけとして転出する傾向にある。県外転出意向は比較的弱いが、育児や家事と両立しやすい雇用条件（リモートワークや時短勤務等）が整っていることや休暇を取得しやすいことを重視するため、就業先がそうした条件に合致しない場合は、転職して県外に転出する傾向がある。

また、自身の昇進やキャリアよりもパートナーとの同居を優先する傾向が強いため、パートナーが県外に住んでいる場合、転出に至ることが多い。

##### 【施策の方向性】

ワークライフバランス型に対しては、県内に就業している女性の定着率を高めるため、柔軟な働き方を実現するための制度整備を支援することや県内事業者が抱える人手不足を解消するアプローチが効果的と考えられる。

また、パートナーとの居住のため県外へ転出した女性に対して、戸建て住宅の購入補助等を通じて、再度県内への居住を促すことも有効だと考えられる。

以下、具体的な施策の例を記載する。

##### <就職・転職希望者に対する施策例>

- ・ リモートワークやフレックスタイムなどの柔軟な働き方の導入・定着促進
- ・ 休暇制度の充実（完全週休二日制等）
- ・ 従業員からの会社に対する評価の可視化（職場の衛生条件が整っている会社が雇用において有利になる流れをつくる）
- ・ 業務改善・改革（業務平準化・標準化）に取り組む企業のノウハウ共有・発信 等

##### <戸建て住宅購入検討者に対する施策例>

- ・ 県内の住宅購入補助の拡充
- ・ 上記補助事業の周知強化（主に子どもの就学前の世代がターゲット） 等

#### ⑤安定・生活基盤重視型

##### 【居住地を決めるうえでの特徴】

安定・生活基盤重視型の女性は自らの意志による県外転出意向は弱いため、転勤辞令、県外に住むパートナーとの同居等の受身な理由で

転出に至る傾向にある。

【施策の方向性】

安定・生活基盤重視型は、生活環境の大きな変更を望まない傾向にあることから、県内で働き続けられる事業者を可視化し、転居を伴う異動がない事業者への就職・転職を促すことが効果的と考えられる。以下、具体的な施策の例を記載する。

<戸建て住宅購入検討者に対する施策例>

- ・ 雇用条件の透明性向上（異動の有無含む）
- ・ エリア採用、転勤がない企業と希望者のマッチングイベントの実施
- ・ 県内事業者に就職した場合の奨学金の返済要件の緩和 等